



平成 24 年 4 月 25 日

各 位

株式会社 札幌北洋ホールディングス  
(コード番号 8328 東証第 1 部・札証)

平成 24 年 3 月期通期の連結業績予想の修正と業績の概要(速報値)

平成 23 年 4 月 22 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期通期(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)の業績予想について、下記の通り修正することといたしましたのでお知らせします。

合わせて、平成 24 年 3 月期通期の業績の概要(現時点における速報値)についてお知らせします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 平成 24 年 3 月期通期(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(単位:億円)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,655	341	244	61 円 45 銭
今回修正予想(B)	1,722	494	242	60 円 95 銭
増減額(B) - (A)	67	153	2	
増減率(%)	4.0	44.9	0.8	
(ご参考)平成 23 年 3 月期	1,664	294	122	31 円 21 銭

(2) 業績予想の修正理由

資金需要低迷などにより、収益の柱である資金利益は低下傾向にありますが、役務取引等利益の伸び等に加え、貸倒実績率の低下による信用コストの減少などを反映し、平成 24 年 3 月期通期の経常利益は 494 億円と前回予想比 153 億円の増益となる見通しであり、業績予想を上方修正いたします。

なお当期純利益については 242 億円と、税制の改正等に伴い、法人税等調整額が増加したため、前回予想比 2 億円の減益となる見通しです。

2. 平成 24 年 3 月期通期の業績の概要(速報値)

(1) 札幌北洋グループ連結の損益状況

- 平成 24 年 3 月期通期の連結コア粗利益は、1,151 億円と前年比 3 億円増加の見通し。  
役務取引等利益が 194 億円と前年比 3 億円増加の見込みであることが主因。  
資金利益は、預貸金利収支が減少となるも、前年度発生した投資信託の解約損(27 億円)が今年度は発生せず、有価証券利息配当金が増加し 925 億円と前年並みを見込む。
- 連結コア業務純益は、375 億円と前年比 4 億円増加の見通し。  
連結コア粗利益の増加と経費圧縮による。  
経費については、新システムセンター移転など大型プロジェクトに関する支出が増加するも、幅広く通常経費を削減した結果、776 億円と前年比 1 億円減少の見通し。
- 経常利益は、494 億円と前年比 200 億円増加の見通し。  
貸倒実績率の低下により信用コストが 62 億円と前年比 188 億円減少見込みである事が主因。なお、第 3 四半期連結累計期間では有価証券の減損処理を行ったため、有価証券等関係損益が 25 億円となったが、その後、第 4 四半期会計期間中に株式市場が若干回復したため、通期決算の有価証券等関係損益は 45 億円と前年比 3 億円増加の見通し。

- ・当期純利益は、242 億円と前年比 120 億円増加の見通し。  
税制の改正に加え、先行き不透明感の高い経済環境を踏まえ将来課税所得をより慎重に見積もった結果、繰延税金資産の取崩により、法人税等（法人税等調整額含む）が 191 億円と前年比 65 億円増加の見通しであるが、経常利益の増益幅が大きく当期純利益は前年比増加を見込む。

【札幌北洋グループ連結】

（単位：億円）

	H23.3 期 (実績)	H24.3 期		H24.3 期 当初予想	当初予想比
		(速報値)	前年比		
経常収益	1,664	<b>1,722</b>	58	1,655	67
連結コア粗利益	1,148	<b>1,151</b>	3	1,164	13
資金利益	925	<b>925</b>	0		
役務取引等利益	191	<b>194</b>	3		
その他業務利益	31	<b>30</b>	1		
経費（除く臨時処理分）	777	<b>776</b>	1	791	15
連結コア業務純益	371	<b>375</b>	4	373	2
信用コスト	126	<b>62</b>	188	43	105
有価証券等関係損益	42	<b>45</b>	3	0	45
経常利益	294	<b>494</b>	200	341	153
法人税等 （法人税等調整額含む）	126	<b>191</b>	65		
当期純利益	122	<b>242</b>	120	244	2

連結コア粗利益 = 資金利益 + 役務取引等利益 + その他業務利益 - 国債等債券関係損益

信用コスト = 貸倒償却引当費用 - 一般貸倒引当金繰入額 + 貸倒損失額

有価証券等関係損益 = 国債等債券関係損益 + 株式等関係損益 + 金銭の信託運用損益

連結コア業務純益 = 連結コア粗利益 - 経費（除く臨時処理分）

【ご参考：北洋銀行】

（単位：億円）

	H23.3 期 (実績)	H24.3 期		H24.3 期 当初予想	当初予想比
		(速報値)	前年比		
経常収益	1,341	<b>1,414</b>	73	1,350	64
コア業務粗利益	1,078	<b>1,079</b>	1	1,096	17
資金利益	922	<b>923</b>	1		
役務取引等利益	147	<b>147</b>	0		
その他業務利益	8	<b>8</b>	0		
経費（除く臨時処理分）	761	<b>761</b>	0	775	14
コア業務純益	317	<b>317</b>	0	321	4
信用コスト	106	<b>78</b>	184	10	88
有価証券等関係損益	42	<b>47</b>	5	0	47
経常利益	262	<b>455</b>	193	325	130
法人税等 （法人税等調整額含む）	115	<b>177</b>	62		
当期純利益	124	<b>241</b>	117	250	9

(2) 主要勘定残高（北洋銀行）

- ・資金量未残は、個人預金、法人預金、及び公金預金の増加により、7兆1,287億円と前年比2,872億円増加の見通し。
- ・預かり資産未残は、個人年金保険等の増加により7,821億円と前年比400億円増加の見通し。
- ・貸出金未残は、地公体及び法人向けの増加により、5兆4,281億円と前年比1,997億円増加の見通し。
- ・有価証券未残は、1兆5,280億円と前年比329億円増加の見通し。

【北洋銀行】

（単位：億円、％）

	H23.3 末 （実績）	H24.3 末		
		（速報値）	前年比	年率
資金量	68,415	<b>71,287</b>	2,872	4.2
預かり資産	7,421	<b>7,821</b>	400	5.4
貸出金	52,284	<b>54,281</b>	1,997	3.8
有価証券	14,951	<b>15,280</b>	329	2.2

資金量 = 預金 + 譲渡性預金

預かり資産 = 公共債保護預かり + 投資信託 + 個人年金保険等（販売累計額）

(3) その他有価証券の評価損益（北洋銀行）

- ・その他有価証券の評価損益は、608億円と前年比96億円減少の見通し。

【北洋銀行】

（単位：億円）

	H23.3 末 （実績）	H24.3 末	
		（速報値）	前年比
その他有価証券	704	<b>608</b>	96
株式	220	<b>189</b>	31
債券	295	<b>273</b>	22
その他	187	<b>146</b>	41

<ご参考>

	H23.3 末	H24.3 末	前年比
日経平均株価（円）	9,755	<b>10,083</b>	328
新発10年国債利回り（％）	1.255	<b>0.985</b>	0.270

(4) 金融再生法開示債権（北洋銀行）

- ・最終処理の進展等に伴う破産更生等債権の減少により、金融再生法開示債権は 1,760 億円と前年比 39 億円減少の見通し。
- ・開示債権比率（部分直接償却後）は、2.50%と前年比 0.11 ポイント改善の見通し。

【北洋銀行】

（単位：億円、％）

	H23.3 末 (実績)	H24.3 末	
		(速報値)	前年比
破産更生等債権	686	595	91
危険債権	793	866	73
要管理債権	319	298	21
金融再生法開示債権	1,799	1,760	39
(開示債権比率)	( 3.37)	( 3.17)	( 0.20)
部分直接償却後	1,384	1,379	5
(開示債権比率)	( 2.61)	( 2.50)	( 0.11)

当グループでは部分直接償却未実施ですが、参考として部分直接償却を実施した場合の計数を記載しております。

開示債権比率 = 金融再生法開示債権 ÷ 総与信 × 100

業績予想ならびに速報値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想等であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

実際の業績は、様々な原因によりこれらの業績予想値等とは異なる可能性があります。